

付着生物ラーバ情報

ホタテガイ稚貝の調子が悪いので 洋上籠洗浄は控えましょう

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称：ハナ、ゴダゴダ)

ラーバは2月24日に奥内沖で12.5個体/m³、野辺地沖で0.8個体/m³、3月4日に奥内沖で5.8個体/m³、久栗坂沖で1.1個体/m³、野辺地沖で2.3個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られました（表1、図2）。

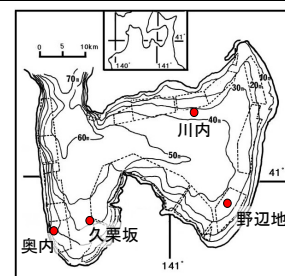


図1 付着生物ラーバの調査地点

(2) キヌマトイガイ(通称：コメガキ)

ラーバは2月24日に奥内沖で19.2個体/m³、野辺地沖で265.6個体/m³、3月4日に奥内沖で3.3個体/m³、久栗坂沖で11.1個体/m³、野辺地沖で224.2個体/m³、川内沖で66.4個体/m³見られました（表1）。

(3) ミネフジツボ(通称：カキ)

ラーバは2月24日に奥内沖で0.8個体/m³、野辺地沖で24.2個体/m³、3月4日に野辺地沖で0.8個体/m³見られました（表1、図3）。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	ミネフジツボ
奥内沖	R7.2.24	12.5	19.2	45.8	0.8
	R7.3.4	5.8	3.3	47.5	0.0
久栗坂沖	R7.3.4	1.1	11.1	13.3	0.0
野辺地沖	R7.2.24	0.8	265.6	87.5	24.2
	R7.3.4	2.3	224.2	31.3	0.8
川内沖	R7.3.4	3.1	66.4	10.2	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は西湾で8℃前後、東湾で6℃前後と、ユウレイボヤが産卵する8℃以上の水温となっている海域があります。

10月以降のラーバ累積出現数は、奥内沖で56.7個体/m³、久栗坂沖で23.0個体/m³、野辺地沖で16.4個体/m³、川内沖で7.0個体/m³と付着数が多くなる目安である5.0個体/m³よりさらに増えました。

ラーバ累積出現数が増加するとさらに大量付着し、今春の出荷作業効率が低下すると考えられます。

(2) キヌマトイガイ

ラーバ出現が続いています。東湾では出現数が多いことから、籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ大量付着する可能性があります。

(3) ミネフジツボ

ラーバ出現のピークが過ぎ、付着はほぼ終了したと考えられます。

3 洋上籠洗浄の注意点

ユウレイボヤが大量に付着している海域がありますが、ホタテガイ稚貝の調子が悪いので、洋上籠洗浄を行うことにより異常貝が増え、さらにへい死する危険性があります（図4）。今年は洋上籠洗浄を控えましょう。

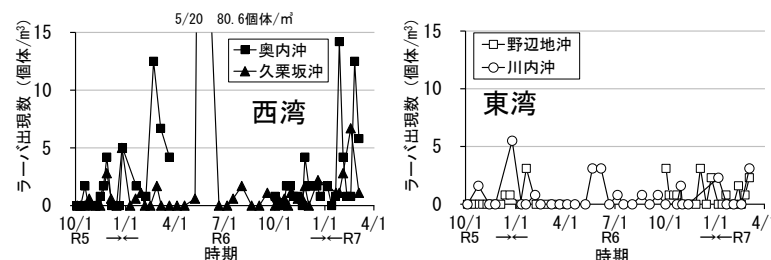


図2 ユウレイボヤ出現数の推移（令和5年10月～令和7年3月）
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値：西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

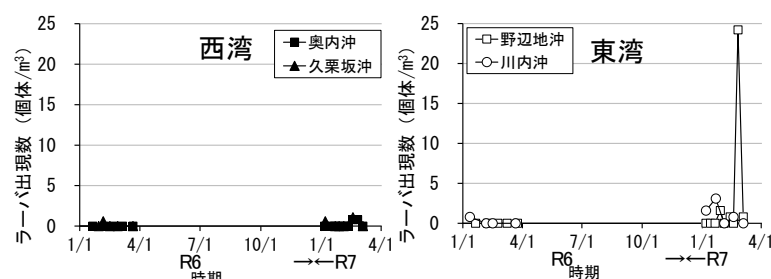


図3 キヌマトイガイ出現数の推移（令和6年1月～令和7年3月）
・令和3年の観察開始から令和5年までの最大値：西湾28個体/m³、東湾33個体/m³

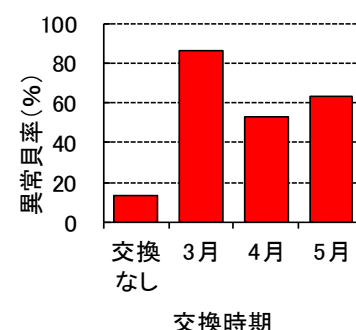


図4 洋上籠洗浄を模したネット交換によるホタテガイの異常貝率（西湾で平成29年6月測定）

